

# 式 辞

厳しい冬の寒さに耐えた旭川沿いの桜が暖かい春の光を浴び、本格的な春の到来を覚えるこの佳き日、PTA会長太田直宏様はじめPTA役員の皆様並びに保護者の皆様方の御臨席を賜り、岡山県立岡山操山高等学校 平成二十六年入学式を挙行できますことは、本校にとりまして大きな喜びであり、皆様に厚く御礼を申し上げます。

ただいま入学を許可された新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんは、ただ今をもって岡山県立岡山操山高等学校の生徒となりました。本校は、明治三十三年開校の岡山県高等女学校および大正十年開校の岡山県第二岡山中学校を源とし、昭和二十四年に岡山県立岡山操山高等学校として誕生した県下屈指の伝統校です。また、平成十四年には岡山県立岡山操山中学校を併設するとともに、「夢実現型単位制」や「未来航路プロジェクト」など、特色ある教育活動を推進してきた気鋭の学校でもあります。

現在、岡山操山中学・高校では、「グローバル人材育成」を学校経営の大きな柱の一つとし、「幅広く深い教養」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」「社会貢献の意識」を育みたい資質として掲げています。いずれの資質も、これからのグローバル社会を生きていく皆さんには大切な資質であり、操山高校では様々な教育活動の中で、この五つの資質を育む取組みを展開したいと考えています。

さて、新入生の皆さんの出身中学校は三十五校におよび、皆さんはそれぞれ異なる中学校での学習活動や学校行事・部活動などを経験してきました。新入生の皆さん一人一人もまた、それぞれ異なる人格や能力あるいは特技・特性を持つ、ユニークでかけがえのない存在です。百万種以上存在する生物の多様性が豊かな自然生態系をもたらしているのと同様に、皆さん一人一人の人格、特性あるいは経験の多様性が、この岡山操山高等学校に新しい活力と可能性を与えてくれるものと期待しています。

「人がもし全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の得があるだろうか」という聖書の言葉があります。この「いのち」という言葉は、原語のギリシア語ではプシュケーという言葉が使われており、生物学的な「いのち」だけではなく、その人間の知情意を含めた人格あるいは生き方そのものを示しています。どのような富や名声を得ても、「その人らしい人生」を失うなら、それは大きな損失であるという意味です。

先にも述べましたが、皆さんは一人一人が他とは異なる人格を有し、それぞれが優れた能力・資質をもっています。皆さんはまず、自分の個性や特技・特性、あるいは自分が興味関心や使命感を抱くことのできる分野を発見してください。自分の短所や欠点だけを見つめて嘆くのではなく、自分の長所や特性を発見し、努力してさらに伸ばし、自信を身に付けて下さい。自分に自信をもつこと、これが実りある高校生活の秘訣であり、他の苦手分野や短所を克服するエネルギーの源にもなります。

次に、そのような自分自身を活かす人生を考えてください。皆さんの人生は一度限りです。この一度限りの人生をいかに生きるか、これが皆さんに与えられた大切な課題です。「和して流れず」の校訓にあるように、社会の変化に適応しつつも、世間の風潮に流されることなく、他人と比較して優越感や劣等感に振り回されるのでもなく、「自分自身の生き方は何か」を深く熱心に考えてください。私たち教職員も本校の特色の一つである「未来航路プロジェクト」や充実した進路指導・教科指導などを通じて、「自分の生き方を探す」皆さんの取組みを応

援したいと考えています。

保護者の皆様、お子様の御入学、まことにおめでとうございます。お子様は、貴重な青春の三年間を本校で学ばれることを決意され、本日入学されました。

お子様にとっては、本校でのこれからの三年間は、自分の人生の在り方を模索し、自分の責任において将来の道筋を選ぶ大切な時期になります。また、甚だ僭越な言い方ですが、保護者の皆様にとっては子育ての最終段階、総仕上げの時期であるとも言えます。お子様が三年後にこの学舎(まなびや)を去るときは、同時に、お子様が一人の独立した人格として親元を離れ、社会の荒海に漕ぎ出すときでもあります。それまでの期間、お子様が自分の人生航路を思い描き、必要な資質・能力を身に付け、伸ばすことができるよう、私たち教職員も全力を傾けて指導・支援させていただきたいと思います。どうか、今後とも、本校教育に対しまして、格別の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、御多忙の中、御臨席いただきましたPTA役員の皆様および保護者の皆様に改めて感謝申し上げます、式辞といたします。

平成二十六年四月八日

岡山県立岡山操山高等学校  
校長 松沢 克彦